

不登校児童生徒への支援①

不登校対策につながる

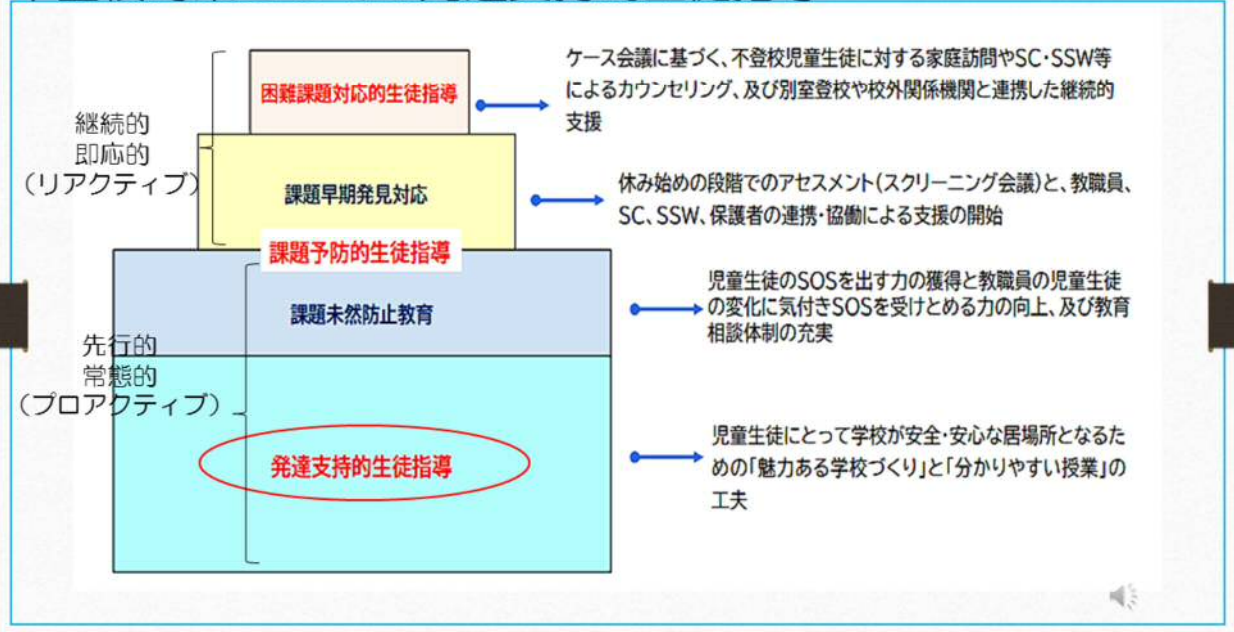
発達支持的生徒指導

シリーズ「不登校児童生徒へ支援 パート①（ワン）」

このシリーズでは、不登校に対して学校が取り組んでいくことについて、シリーズ化しています。

今回は不登校対策につながる発達支持的生徒指導について学び、考えていきましょう。

不登校対策としての発達支持的生徒指導



令和4年度の生徒指導提要の改定によって、生徒指導の構造の整理が行われました。

この校内研修プログラムでは生徒指導提要の改定で示された、重層的支援構造の考え方に基づいて、具体的な支援内容を理解、実践できるように構成しています。

今回はここ★

不登校対策としての「発達支持的生徒指導」をどのように考え、実際の対応をしていけばよいのか皆さんと一緒に考えていきたいと思います。

発達支持的生徒指導とは、全ての児童生徒を対象とし、先行的・常態的に、学校全体や学級・ホームルームで行う工夫全般を内容としています。

不登校対策としての発達支持的生徒指導

(1) 魅力ある学校づくり・学級づくり



QUプロット図のタイプ別特徴と授業改善のポイント

<p>ゆるみの見られる集団</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業のルールが確立されて、忘れいや状態が生まれやすい。学習意欲や出席率が低下する。 予習と学習のグループ活動から、授業の活動が展開しにくくなる。 人の動きや声などが集中し、授業が集中しにくくなる。特に授業の前半に集中力が低下する。 一貫性のある授業は展開する。 <p>授業改善のポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業のルールを再確認する。 授業の前半に集中力を高める。 授業の前半に集中力を高める。 授業の前半に集中力を高める。 	<p>まとまりのある集団</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業のルールが確立されており、忘れいや状態が生まれにくい。 学習意欲や出席率が向上している。 授業の前半に集中力が向上している。 授業の前半に集中力が向上している。 <p>授業改善のポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業の前半に集中力を高める。 授業の前半に集中力を高める。 授業の前半に集中力を高める。
<p>忘れ始めの(荒れた)集団</p> <ul style="list-style-type: none"> 私語、身振りの多い行動、授業行動が集中力低下の原因となる。 授業の前半に集中力が低下している。 授業の前半に集中力が低下している。 <p>授業改善のポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業の前半に集中力を高める。 授業の前半に集中力を高める。 授業の前半に集中力を高める。 	<p>かたさの見える集団</p> <ul style="list-style-type: none"> 学習意欲や出席率が低下している。 授業の前半に集中力が低下している。 授業の前半に集中力が低下している。 <p>授業改善のポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業の前半に集中力を高める。 授業の前半に集中力を高める。 授業の前半に集中力を高める。

発行 鳥取県教育庁義務教育課 TEL.0852-22-6709 ホームページ <http://www.pref.tottori.ac.jp/kyoikukenai/>

生徒指導提要では、2つの項目をあげて学校が実践していくと良い具体的な内容を示しています。

1つは「魅力ある学校づくり・学級づくり」ということです。みなさんの学校でもすでに様々な取組が行われていることでしょう。

- ★例えば、アンケートQUやアセスを活用した居心地の良い学級集団づくりと言え、ピンとくるのではないのでしょうか？
- ★また、取組の工夫としては、プレゼンやポスターセッション、KJ法によるグループ協議などは、さまざまな学習場面で取り入れられ、実践されていることと思います。

不登校対策としての発達支持的生徒指導

(1) 魅力ある学校づくり・学級づくり



日々の学校生活の中に発達支持的生徒指導の視点を取り入れて考えてみると、児童生徒は、

★「自分という存在が大事にされている」

★「心の居場所になっている」

★「学校が自分にとって大切な

★意味のある場になっている」と実感できます。

それぞれの学校や教職員は、日々の授業や特別活動を通し、

★学級・ホームルームが安心して楽しく過ごせる雰囲気になるような居場所づくり・集団づくりを進めることが重要です。

不登校対策としての発達支持的生徒指導

(2) 学習状況等に応じた指導と配慮

指導の個別化

学習の個性化



そして2つ目は「学習状況等に応じた指導と配慮」です。

不登校の原因として、学業の不振がその一つとなっている場合があります。

授業において、児童生徒一人一人の学習状況等を把握した上での

★「指導の個別化」や

児童生徒の興味・関心に応じた

★「学習の個性化」を目指して、★個別最適な学びを実現できるような指導の工夫をすることが大切です。

「どの児童生徒も分かる授業」、「どの児童生徒にとっても面白い授業」を心がけることで、

全ての児童生徒が、学業への意欲を高めたり、学級・ホームルームで、自己存在感を感じたりすることが可能になります。

不登校対策としての発達支持的生徒指導

(2) 学習状況等に応じた指導と配慮

個別指導

グループ別指導



補充的な学習

発展的な学習

習熟度別学習

課題学習



そのためには、児童生徒が学習内容を確実に身に付けることができるように、

★ 個別指導やグループ別指導

★ 学習内容の習熟の程度に応じた指導 児童生徒の興味・関心等に応じた課題学習

★ 補充的な学習や発展的な学習などの学習活動を取り入れた指導 など
指導方法や指導体制を工夫・改善し、個に応じた学習指導の充実を図ることが求められます。

不登校対策としての発達支持的生徒指導

(2) 学習状況等に応じた指導と配慮



では、発達支持的生徒指導の考え方を生かす授業とはどのようなものを言うのでしょうか。

先に、述べたように、学習のスタイルとしては、ICTを活用したグループ協議や課題学習でのプレゼン協議等、色々考えられそうですね。

しかし、どんな学習スタイルであったとしても、大切にしておきたいことは生徒指導の実践上の4つの視点が意識されているか？

ということです。

★当たり前のように思えることが、実は、不登校対策につながっているのです。

不登校対策としての発達支持的生徒指導

★生徒指導の実践上の4つの視点

- 1 自己存在感が感じられるようにする
- 2 共感的な人間関係の育成が図られるようにする
- 3 自己決定の場の提供を取り入れる
- 4 安全・安心な風土の醸成に配慮する



生徒指導の実践上の4つの視点とは、

- ★自己存在感が感じられるようにする
- ★共感的な人間関係の育成が図られるようにする
- ★自己決定の場の提供を取り入れる
- ★安全・安心な風土の醸成に配慮する

という4つです。

日々の授業において、様々な学習形態を工夫し、単元、題材にあった学習ツールや教材、教具を活用したうえで、

さらに、この4つの視点が意識されていけば、子ども達は、より「自らの可能性を発揮できた」と感じられるようになることでしょう。

不登校対策としての発達支持的生徒指導

★自己存在感を感じられるようにするためのかかわり

役に立った
自分の考え方を
認めもらった

ありのままの自分
でいいんだ！！
いけてるかも
見てもらっている



自己存在感を感じられるような関わりとはどのようなものでしょう？
子ども達が、「自分も一人の人間として大切にされている」と感じられるよう
な関わりをしていくためには
★ありのままの自分を肯定的に捉えることができるようにしたり
★他者のために役に立った、認められた
という思いを育むことが大切です。

不登校対策としての発達支持的生徒指導

★共感的な人間関係を育成するためのかわり



共感的な人間関係を育成するためには

★互いに認め合い、励まし合い、支え合う関係を育むことが重要です。

★相手の立場に立って考え、行動できる関係

そんな関係を育むことができるチャンスが、日常の授業中に隠されています。

不登校対策としての発達支持的生徒指導

★自己決定の場を提供するためのかわり



授業場面では、子どもたち自身が決定し、

★やってみたい、この方法はどうか
という思いを持つことがあります。

自信がない時、考えが思いつかないときは

★こっそり、教えてくれたり、つぶやいたりすることもあるかもしれません。
そんな時、どのようなリアクションをしていますか？

不登校対策としての発達支持的生徒指導

★安全・安心を感じられるようにするためのかかわり



この仲間最高!
何でも言い合える

そして、安心して授業や学校生活が送れるような風土を子どもたち自身が作り上げようとする気持ちを育むためには

★一人一人の個性が尊重され、何でも言い合える環境を保証する教員の関わりが求められます。

日常の授業の中に「安心」と感じられる教員の関わりとはどのようなものがあるでしょう？

不登校対策としての発達支持的生徒指導

ミニ ワーク①

授業の中の話し合い活動の場面で・・・
留意しておくといふことを具体的に考えてみましょう。

- 1 自分が担当している授業場面をイメージする。
- 2 学習場面の工夫、配慮を考える。
(生徒指導の実践上の4つの視点をふまえて)
※併せて、励ましや賞賛の言葉かけも・・・

ではここで、授業の中に、生徒指導の実践上の4つの視点を取り入れることを心がけるといふ視点で、演習を行ってみましょう。

★自分が担当している授業場面を思い出してください。

★次に、その場面で、生徒指導の実践上の4つの視点をふまえて見直してみるとどのような工夫や配慮が考えられるか、見直してみましょう。

★併せて、励ましや賞賛の言葉など活動の途中や活動後の言葉かけの具体を考えてみるという内容です。

不登校対策としての発達支持的生徒指導

★生徒指導の実践上の4つの視点をふまえて、授業を行うとしたらどのような工夫や配慮、声かけができるでしょう。場面を想定し、考えてみましょう。

- 1 自己存在感が感じられるようにするには・・・
- 2 共感的な人間関係を育成するには・・・
- 3 自己決定の場を提供するには・・・
- 4 安全・安心と感じられるようにするには・・・

配布資料の中のワークシートを使って考えてみます。
生徒指導の実践上の4つの視点をふまえて、授業を行うとしたらどのような工夫や配慮、声かけができるでしょう。

不登校対策としての発達支持的生徒指導

★生徒指導の実践上の4つの視点をふまえて、授業を行うとしたらどのような工夫や配慮、声かけができるでしょう。場面を想定し、考えてみましょう。

- 1 自己存在感が感じられるようにするには・・・
- 2 共感的な人間関係を育成するには・・・
- 3 自己決定の場を提供するには・・・
- 4 安全・安心と感じられるようにするには・・・

今回は、4つの視点の中からできそうだと思うものを1つ選んで、考えてみましょう。

スライドを一時停止して、ワークシートに記入してみてください。

時間は、記入3分、話し合い5分間です。

進捗状況に応じて、延長していただいてもかまいません。

大体の方が、記入し、感想を話し合った時点で動画を再生してください。★

不登校対策としての発達支持的生徒指導

★生徒指導の実践上の4つの視点をふまえて、授業を行うとしたらどのような工夫や配慮、声かけができるでしょう。場面を想定し、考えてみましょう。

動画は一旦停止



記入（3分）→話し合い（5分）

1 目

2 共

3 目

4 安全・安心と感じられるようにするには・・・

では、どうぞ★

不登校対策としての発達支持的生徒指導

★生徒指導の実践上の4つの視点をふまえた具体的な指示
励ましとは？

1 自己存在感が感じられるようにすると・・・

⇒一人一人が大切な存在だと感じられるようにする

☆子どもの顔を見て、名前を呼ぶ

☆つぶやきを積極的に取り上げ、発表の機会をつくる

☆誤った解答でも、全員で考える契機とするなどして
大切に扱う

たくさんの工夫や声かけを考えられたのではないのでしょうか？

では、一つずつ見てみましょう。

★1の自己存在感が感じられるようにするためには、★一人一人が大切な存在
だと感じられるようにすることが大切です。

★例えば、子どもの顔を見て、名前を呼ぶ

★つぶやきを積極的に取り上げ、発表の機会をつくる

★誤った解答でも、全員で考えるきっかけにするなどして大切に扱う などが
考えられます。

不登校対策としての発達支持的生徒指導

★生徒指導の実践上の4つの視点をふまえた具体的な指示
励ましとは？

2 共感的な人間関係の育成をふまえると・・・

⇒ **お互いのありのままを受け入れ、他者受容感を育てる**

☆子ども同士の発言をつなげ、集団の学び合いにする
教師と子どもの一問一答にならないように・・・

☆教師が共に努力しようという姿勢で児童生徒と関わる



共感的な人間関係の育成では、★お互いのありのままを受け入れ、他者受容感を育てるような工夫をします。

例えば、★子ども同士の発言をつなげ、集団の学び合いにすることが考えられます。

教師と子どもの一問一答形式にならず、「みんなはどう思う？」などのつなぎの言葉を工夫するということですね。

★教師が共に努力しようという姿勢で児童生徒と関わることも大切です。

子ども達の課題解決に向けて、教師は学びのロールモデルになりたいものです。

不登校対策としての発達支持的生徒指導

★生徒指導の実践上の4つの視点をふまえた具体的な指示
励ましとは？

3 自己決定の場の提供する

⇒自分で考え判断し、決めて実行できる場面を意図的に設定する

☆自分で調べたり、考えたりする時間を十分に確保する

☆学習方法や、学習形態を選択できるようにする

☆自身の学習のめあてを振り返り、これからの学習につなげるような場の設定をする

自己決定の場の提供する際には、★自分で考え判断し、決めて実行できる場面を意図的に設定します。

例えば、★調べたり、考えたりする時間を十分に確保することや

★児童生徒自ら選択する場面を設けることなどが考えられます。

また、★授業のふり返しから、これからの学習の見通しを持たせることも自己決定につなげることができます。

不登校対策としての発達支持的生徒指導

★生徒指導の実践上の4つの視点をふまえた具体的な指示
励ましとは？

4 安全・安心な風土の醸成

⇒「安心して楽しく学べる雰囲気を感じられる授業」

☆ルールの確立＝児童生徒全員が共有している学習規律

☆互いに意見を言い合えて、認め合える話し合い

☆誰とでも楽しくできるペア、グループ活動

安全・安心な風土の醸成に配慮するにはどうすればよいでしょう。

★安心して学習するには、だれからも非難されないなどの安心感やその雰囲気が感じられるようにしていくことが大切です。

★ルールの確立＝児童生徒全員が共有している学習規律は大切です。

★グループの人が全員発表できるようにするなどの話し合いのルールは学級全体作っていくものです。

そのルールが「あたりまえ」になるまで定着させていくことで安心感が得られます。

不登校対策としての発達支持的生徒指導

★生徒指導の実践上の4つの視点を意識して・・・

見守る



励まし



伴走する



これが正解というものではなく、4つの視点を意識して、★学習の様子を見守る、★励ます、★伴走するといった教員の意識が変わるだけで、授業の雰囲気違ったものになるのではないのでしょうか？

学級の実態、その子その日の調子、得意不得意などを見極めて、子ども達が「どう学んだか」というまなざしで考えていくとよい声かけが思い浮かぶかもしれません。

不登校対策としての発達支持的生徒指導



今回の演習で考えたことを、実際の授業、指導案の中に盛り込むとしたら・・・

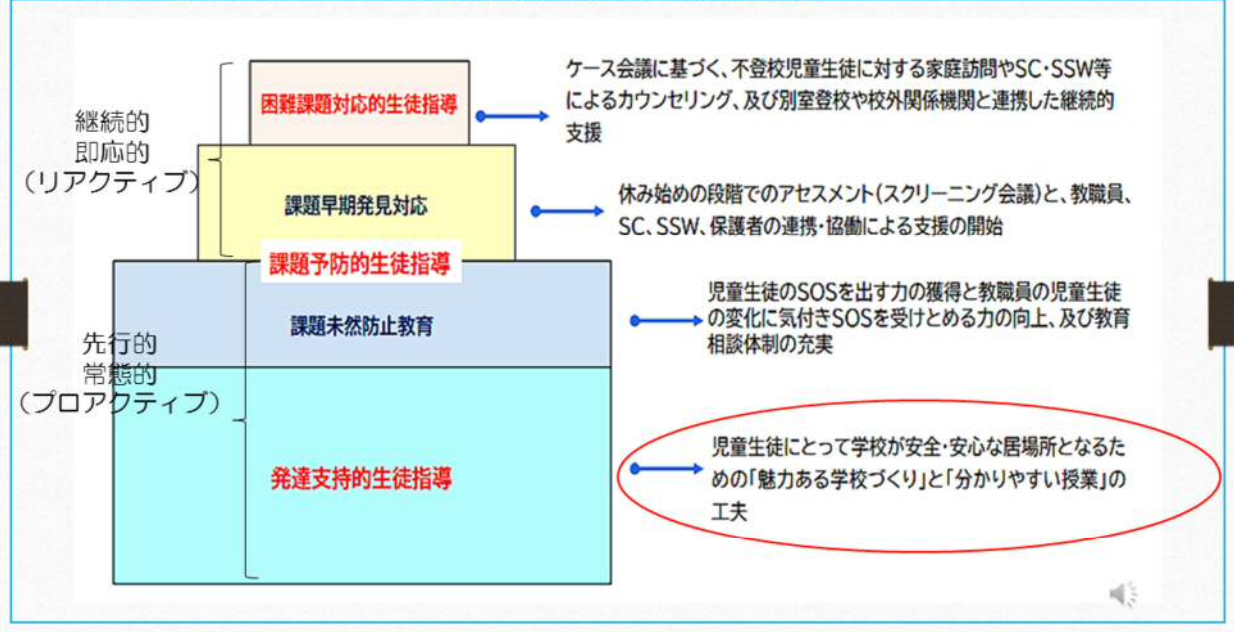
★「この場面なら自己決定かな」など
より具体的な場面で繰り返し実践してみると、発達支持的生徒指導の考え方を生かす授業を行っていく力を高められていくと思います。

不登校対策としての発達支持的生徒指導



人は誰でも「わかりたい」「成長したい」という願いを持っている存在です。私たち教職員は、★温かいまなざしを持ち、★どの子に対しても大切な存在という気持ちを忘れず、日々の授業の中のあらゆる場面において、励ましや賞賛の言葉、活動の途中や活動後の言葉かけにも注意していきたいものです。

不登校対策としての発達支持的生徒指導



生徒指導提要には、★安心・安全内場所となるためにする工夫が大切と書かれています。

子ども達は、学校生活のほとんどの時間を「授業時間」として過ごします。全ての児童生徒を対象に「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体化をどのように進めていくか？

「どのように教えるか」ばかりでなく子ども達が「どのように学んだか」を考えながら工夫してみましょう。

レッツ チャレンジ！！



今回の研修を一つのきっかけとし、日々の実践の中で積み重ねていかれることを願っています。
以上で「不登校対応としての発達支持的生徒指導」のプログラムを終了します。
お疲れ様でした。

不登校児童生徒への支援①

不登校対策につながる 発達支持的生徒指導

【参考・引用】

- 生徒指導提要（文部科学省）2022年
- 組織で取り組むアンケートQUの活用（島根県教育庁義務教育課）
2014年
- 月刊 学校教育相談 2023 1月号（ほんの森出版）
- 月刊 生徒指導 2023 1月号（学事出版）

【BGM】

- 甘茶の音楽工房 <https://amachamusic.chagasi.com/>